

[019] 雅俗表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4785221>

出版情報：雅俗. 19, 2020-07-15. 雅俗の会
バージョン：
権利関係：

■同人一覽

(維持同人)

天野 聡一 板坂 耀子
 大久保順子 王 自強
 樫澤 葉子 勝又 基
 川平 敏文 菊池 庸介
 ロバート キャンヘル
 久保田啓一 河野 理菜
 白石 良夫 進藤 康子
 高杉 志緒 高橋 昌彦
 西田 耕三 丹羽 謙治
 菱岡 憲司 宮崎 修多
 盛田 帝子 安永 美恵
 劉 書縁 若木 太一

(賛助同人)
 穴山 健 飯倉 洋一
 磯部 敦 位田 絵美
 岩井 眞實 大島 明秀
 尾崎 千佳 神永 暁
 加藤 弓枝 神作 研一
 工藤いずみ 工藤 俊玄
 合山林太郎 塩村 耕
 勢田 道生 高山 大毅
 中森 康之 中山 成一
 服部 仁 花田富二夫
 伴野 英一 平岡 隆二
 廣瀬千紗子 藤沢 毅
 牧野 宏子 松村 美奈
 三國 恵里 三ツ松 誠
 柳沢 昌紀 矢野 準
 米谷 隆史 脇山 真衣

(五十音順)

池澤 一郎
 入口 敦志
 岡田万里子
 柏崎 順子
 清登 典子
 琴 榮辰
 白瀬 浩司
 田邊菜穂子
 西浦 和稔
 浜田 泰彦
 平山 聖悟
 古相 正美
 溝田 直己
 村田 裕司
 山田 洋嗣

■後記

まずは中野三敏先生のご逝去に触れなければならぬ。先生は昨年十一月二十七日、この世を去られた。本誌が復刊する際、先生はその準備金として、多大な金額をご寄付くださった。折しも、名だたる国文学関連の専門誌が次々に廃刊していた時期。復刊という一種の「賭け」に打って出るにあたって、この資金面での安心感はとても大きかった。心より感謝申し上げますと共に、謹んでご冥福をお祈り致します。今春に企画されていた追悼会は新型コロナ禍で延期となつていますが、いずれゆっくりと、ご遺品やご著書をずらりと並べて、在りし日を偲ぶ時間を持ちたい。▼さて、『雅俗』一九号をお届けする。「この三冊」は池澤氏。三冊ではない、異例のスタイルであるが、本コラムの趣旨を十分すぎるほど体現している。▼今回も本誌初登場の方を中心に紹介する。「論考」では、加藤稿が、版本『二十一代集』についての精密な書誌学的考察を行う。若木稿は、氏の大潮研究の集大成ともいふべきもの。「スポットライト」は、中国で活躍されている劉氏。堅実な都賀庭鐘論をお送りいただいた。「特別コラム」の勝又稿は、ハーバード大での授業の様子をレポート。「私の研究履歴」は大谷氏。自分は御栗鷹山ばかり登って、富士山を見ていないのかと自戒することである。▼今回のコロナ禍で、初めてリモート研究会なるものを開催した。普段ならばまず参加できない遠隔地の方々も、文字通り世界中から集った。研究会の前後に交わす挨拶や、休憩時間に行う抜刷のやり取り。そして何より、酒を飲みながらの歓談。そういった「余白」が少ないのは寂しいが、場所という概念を飛び越えて交流できる利点は、今後もうまく活用したい。(川平)

雅俗 第十九号

令和二年七月十五日 発行

■編集委員会

高橋昌彦 川平敏文 亀井 森
 菊池庸介 菱岡憲司 天野聡一

■発行

雅俗の会
 (事務局)
 〒八一九一〇三九五
 福岡市西区元岡七四四
 イースト一号館
 九州大学文学部 川平研究室内
 電話 092-802-5652
 e-mail: gazoku2@gmail.com

■印刷所

城島印刷株式会社
 〒八一〇一〇〇一二
 福岡市中央区白金二一九一六